

場 所		分 類		被ばく低減対策好事例集			
原子炉建屋内	R B	Z	7			1	時間
タービン建屋内	T B					2	距離
R ZONE	R					3	遮へい
Y ZONE	Y					4	線源の除去
G ZONE	G					5	遠隔、ロボット化
その他	(Z)					6	汚染拡大防止
()		7	その他	番号	02-10		

内 容	ALARA活動			
作業場所	1F構内			
概 略	ALARA活動として被ばく低減プロセスを通じてPDCAを回し被ばく低減を図っている。			
評 価 (定性・定量)	効 果	被ばく線量(mSv)	対策前	対策後
		人工数(人日)	—	—
事例詳細				

■概要説明

ALARA活動とは、総計画線量0.5人・Svを超えるまたは、個人線量15mSv/年度を超える工事件名について以下のPDCAを回すことで計画の精度を向上させ、被ばく低減を図るプロセスである。

[P]被ばく低減対策の立案

- ・ALARA会議を開催し、被ばく低減対策の妥当性について審議
- ・放射線管理計画書のレビューを行い、計画線量等の妥当性確認

[D]工事実施

- ・被ばく低減対策工事

[C]実施状況の確認

- ・現場観察を行い、採用した被ばく低減対策の効果を確認
- ・追加の被ばく低減対策必要の有無を確認
- ・線量10日報※を作成し、10日毎に計画線量と実績線量の乖離を確認
- ・期間の長い工事については、ALARA会議中間報告会を開催し、被ばく低減対策の実績を確認

[A]実績報告・改善

- ・現場観察で抽出した良好事例と改善事項を共有し、作業に反映
- ・線量10日報※に有意な差が生じている場合は、原因を追究し、必要な対策と計画線量の見直しを実施
- ・ALARA会議報告会（中間報告会含む）から得られた知見を共有し、作業に反映

※線量10日報とは、10日毎に積み上げた累積計画線量と、実績線量をグラフ化したもの

